

K O Σ M O Σ

Vol. 9, No. 3 (No.28) 1975. 4. 8

大学と図書館

大 島 建 彦

もともと大学付属の図書館は、大学存立の目的を達するために、どうしても欠かせない部門として設けられている。すなわち、研究・教育の機関としての大学が、その重要な機能を果せるように、必要な資料の提供にあたるのである。ところで、今日の大学では、肝心の研究や教育が、どのようにおこなわれているか、図書館の体制も、それによってきまってくるであろう。いうまでもなく東洋大学は、わりに短い期間に、めざましい発展を遂げてきただけに、いくらか不自然なほどに、さまざまな部門を抱えている。研究の面に限っていうと、いちおう組織の上では、研究室や研究所を中心になりたっているが、むしろ実際には、個々の研究者の創意にささえられて、とりどりにすぐれた成果をあげてきたといえよう。しかも、それぞれの研究者の研究領域は、たがいに複雑に入りこんでおり、一学部の諸学科どうしの関聯が、他学部の諸学科との関聯よりも、いっそう緊密であるとは限らない。そのような研究の実情からも、大学の中央図書館の役割が、あらたに見なおされてよいのではなかろうか。

アメリカなどの大学では、研究用の図書館と教育用の図書館とが、かなりあきらかにわけられてきたという。私一個の気持としては、東洋大学の現状では、研究図書館と教育図書館とをわけることが、さしあたり必要であるとは思われない。また実際に、図書館の資料そのものが、かならずしも研究用と教育用とにわけられるものではない。それよりも、資料の提供とあわせて、資料の保存のためにも、必要な施設の確保をはからなければならないであろう。さいわいにも、『東洋大学図書館蔵書目録』の刊行によって、よその図書館との交流を進めながら、この図書館の充実をはかる道も、私どもの前に開かれている。それにつけても、研究の第一線で活躍される先生方や、そのご指導のもとに精進される学生諸君には、この図書館の活用を通じて、特に蔵書構成などの面で、この図書館の充実をお助けいただきたいものである。

(図書館長事務取扱)

| | |
|--------------------|-----|
| 特集・私のすすめる一冊の本 | 2~4 |
| 本学に学んだ人々 | |
| —3—山本和夫 | 5 |
| 指定図書制度について | 5 |
| 蔵書印が変ります | 6 |
| 投書箱から一閲覧室の環境保全について | 7 |
| 日誌(10月~2月) | 8 |

特集 私のすすめる一冊の本

はじめに 学生の皆さん、入学・進級おめでとう。今年も新学期を迎え、図書館運営委員の諸先生にお願いして「私のすすめる一冊の本」の特集をいたしました。何を読むべきか「一冊」に限定することは困難ですが、人生の折り折りにふれて誰れにでも忘れ難い一冊の本があります。この特集がそのような「一冊の本」との出会いとなってくれば幸いです。(注：掲載にあたっては、執筆された諸先生の氏名のアルファベット順にいたしました。)

布施柑治著
「布施辰治外伝幸徳事件より松川事件」

未来社 昭和50年

荒井貢次郎
(法学部教授)

一思想と情熱の弁護士の伝記—
東京新聞(1975. 1. 27)の「読書」欄で、立命館大・塩田庄兵衛教授が、布施柑治「布施辰治外伝—幸徳事件より松川事件—」(1975. 未来社・1,400円)を紹介する文のなかで、布施弁護士(1880—1953)を『…かれ自身が弁護士資格を奪われ、さらに50歳を過ぎた身で入獄のうき目をも見た。その間、岩手県の山民の入会権をまもる活動をつうじて、第一級の学問的成果をも残し、また普選運動の先頭にも立った。「民衆は官憲に対して権威を持たねばならない」という信念を率直に実践した…』という。この本は、同弁護士の子息で、もと日経新聞記者の著述、豊富な資料を使いこなしている。同氏は、すでに、「ある弁護士の生涯—布施辰治—」(1963・岩波新書)を書く。弁護士法一条一項に「弁護士は基本的人権を擁護し、社会正義を実現することを使命とする。」とある。それでは、布施弁護士像の評価は、読者にまかそう。(発注中)

て根源からの人間形成に連ってゆくことを積極的に説くのが『十地経』である。

十地とは菩薩の修道の進展の階梯を意味し、その心境の深まりを十の段階に分けて説くのであるが、この本の訳者はそれをヘーゲルの『精神現象学』と対比させ、「菩薩の現象学」と称している。それは絶対精神ならぬ「空の現象学」としての内容を有すべきものともいえよう。それは一切の歴史的な相対性を超出した永遠の相における人間形成の叙述に他ならない。そこでは、人間の実現すべき自由平等の理念や無限の価値内容が、改めてそこから積極的にうち出されてもゆくのである。そのような意味で、われわれにとってこの經典は極めて重要な、そして深い意味を有しているといえる。(発注中)

近藤富枝著
「本郷菊富士ホテル」

講談社 昭和49年

小林一郎
(短期大学日本文学科教授)

この本は特に思想的に有益なものとか、学問的に啓発されるとか、人間形成に役立つとかと言った点です

ぐれているというものではないが、「菊富士」という一つのホテルが文化的に果たした役割を掘り下げている視点に深く動かされるからである。大正リベラリズムの時代に建てられ今度の第二次世界大戦における東京空襲で炎上し壊滅し去った「菊富士」は大杉栄・伊藤野枝・宇野浩二・竹久夢二・谷崎潤一郎・尾崎士郎・石川淳・三木清・宮本百合子そして広津和郎・坂口安吾らをのみ込んでいるのである。宇野は塔の部屋には住まず「四方山」は虚構であることや、広津の「女給」「風雨強かるべし」坂口の「風博士」「吹雪物語」と言ったものはすべて、ここの住人との交流の中から

荒牧典俊訳
大乘仏典「十地経」

中央公論社 昭和49年

河波昌
(文学部教授)

ニヒリズムの到来が、今や現実となってきたる当今、そのニヒリズムをわれわれ東洋人なりに積極的に

生き抜こうとする場合、「空」の実践を説く大乘仏教が限りなく新しい展望を与えてくれる。その空の実践(一般若波羅蜜)とは、徹底して一切を否定してゆく行為であるが、その行為自体がかえ

生れたものなどが分り、大正から昭和の文学の実態の一部が理解出来るとともに、文学研究の調査の一つの視点、さらに文学の持つコワサを知ることが出来る本なのである。(発注中)

| |
|------------------------------------|
| 藤沢令夫訳 プラトン「パイドロス」 岩波文庫 昭和42年 |
| 木幡順三 (文学部教授) |

美にあこがれる者はこの不朽の古典を一読せねばならぬ。愛に思いをはせる者は再読せねばならぬ。そして、

哲学の道をたどろうとする者は三たびこれを翻読すべきである。

この古典の内容は、その構成において複雑であり、その主題において錯綜し、それらを統一的に力づくで把握することはまことに容易でない。一一しかし、専門家の解釈はここでは二の次だ。われわれはまず、「美のアイデア」の想起を説く、かの有名な、翼を備えて天翔ける魂の馬車のミュートス(物語)からでも読みはじめようではないか。プラトンのたくみな語りくちに魅せられた者は、美の、そして愛の形而上学への献身を誓わずにはいられないであろう。この強烈な触発を持続させるエネルギーになるのは、プラトンがディアレクティケーとよぶところの、事物の真実在をきわめゆく哲学的探究の方法なのである。

(131.3: P: 65)

| |
|--|
| Taylor, C. F. 著 「The internal combustion engine in theory and practice」 |
| 工藤義人 (工学部教授) |

私の専門になっているエンジンの分野についていえば、C.F. TAYLOR先生の“THE-INTERNAL-CO-

MBUSTION-ENGINE-IN-THEORY-AND-PRACTICE”がこれに該当するものと思われる。三年前、輪講のテキストをさがしに丸善に行った時目に止まったのがこの本である。由来輪講その他の資料として利用させていただいているが、内容に出てくる先生の見解には共鳴する点が多い。それはテイラー先生が主として設計的立場に立って解説或は見解を述べておられるのに対し、私が企業にいたとき、主として設計関係を担当していたからであろう。私が学校を出て最初に入社したのが中島飛行機株式会社で、入社早々戦闘機用のエンジンの設計を命じられ、先輩から参考資料とし

て与えられたのがテイラー先生の講義録であった。これはその前年に日本海軍が米国から先生を招聘して講義をしてもらった記録で、その中に出ていた数値を参考にしてエンジンの設計をやったことをなつかしく思い出している。先生は当時既に一流の設計技師として日本に招聘されたものでそれから丁度40年を経た現在既に相当な老齢に達して居られる筈であるが、現在尚米国の第一級の工業大学といわれているMITで御健在の様である。尚この本はMITで教科書として使われているように思われる。エンジンについて勉強したい人には是非一読をおすすめしたい。(533: TC)

| |
|--|
| 山田 卓著 「ほしぞらの探訪 肉眼・双眼鏡・小望遠鏡によるほしぞらの観望」 地人書館 昭和49年 |
|--|

カーライルは晩年になって、誰も星座について教えてくれなかったことを嘆いたという。既に成長した者にとって子供の

為の入門書によってその道に入るにはある種の抵抗があるのが普通である。このような人達があとになってカーライルの嘆きを味わわないで済む為の誠に適当な入門書が昨年出版された。

山田卓著「ほしぞらの探訪、肉眼・双眼鏡・小望遠鏡によるほしぞらの観望」(地人書館)がそれで、各星座ごとの6等星まで入った星図、伝説を含めた案内などが盛り込まれており、肉眼でも十分楽しめるが、さらに写真用の三脚7×50位の双眼鏡があれば我家の物干場は立派な私設天文台となろう。

さらにこの本に対する成人向の入門書としては、これも昨年ジエグリー著田中訳の星座入門が現代教養文庫の一冊として出版されていることもつけ加えて置こう。(発注中)

| |
|------------------------------|
| 渡辺照宏著 「仏教」第二版 岩波新書 915 |
| 大鹿実秋 (文学部教授) |

「佛教」第二版は学界十余年の進歩にあわせて新しい構想のもとに初版を書き改められたもので、頁数は

ほぼ同じでも内容は初版にくらべて凝縮されて濃厚である。本書の内容は著者が専門学者の批判に耐え得るようその蘊蓄を披瀝した、学問的良心に満ちたものでありながら、叙述は平易であり予備

知識なしで読めるように工夫されていて、本書は学生にも研究者にも恰好の参考書である。なお、本書はその姉妹書である「お経の話」(岩波新書648)とあわせ読むことによって仏教理解が完全になるように構成されている。もとより本書は仏教の原点にたちかえり、仏教本来の形態を歴史的に記述したものであるから、特異な発展をみた日本の各宗各派の佛教を性急に求める者には著者の「日本の仏教」(岩波新書)、「日本仏教のころ」(筑摩書房)などの別の書物が読まれなければならない。著者の学的良心は「仏教」初版を廃棄したが、索引などあってそれはそれなりに捨てがたい名著であった。(整理中)

| |
|--------------------------------|
| 中沢式仁著 「水資源の話」 日経文庫 昭和49年 |
| 扇田彦一 (工学部教授) |

利根川をはじめとする全国の河川における昭和47・48年と2年続きの渇水騒ぎ以来、水問題に関する国民

の関心が急にたかまった。東京都では、水道水供給の目標とする「豊富」に反して、需要抑制のキャンペーンに乗り出し、国も首都圏や近畿圏などの水需要集中地域では、近い将来、供給能力に不足をきたすことをにわかに広報し始めた。しかし一般国民は、まだ日本は豊水国であり、ダムなど水源開発施設を建設しさえすれば、水資源はいくらでも開発されると信じているふしがある。大気中と地表との間を循環している水の量は有限であるから、水利用に限界のあることは当然であるのに、今までこの自明の理が、ほとんど全く説かれていなかったのは、考えてみれば不思議である。本書の著者は、長年建設省にあって水行政を担当してきた技術者であって、水の供給面に主眼をおいた類少ない解説書として、内外の豊富かつ最新の資料を駆使して、水資源問題の深刻さを強い説得力をもって語っている。(発注中)

| |
|------------------------------|
| 「あすの農村」 新日本出版社 昭和49年創刊 |
| 重富健一 (経済学部教授) |

「あすの農村」の創刊に寄せて—農業経済または農業政策論という学問分野が、農業・農民・農村問題

にかかわる社会科学だということについては、とくに異論はない。だが、農業問題とはなにかとい

うことになる、論者の考え方や社会的立場のちがいに応じて千差万別である。同じ考え方、立場の人の間でも、最近ますます専門的に分化する傾向も目立つ。こうして、私なりに納得もし、安心もして、初學者におすすめてできるという一冊の単行本となると、皆無というしかない。

幸い、昨年12月に『あすの農村』(新日本出版社)という農民向けの月刊誌が創刊された。農業問題にかかわる理論、政策、運動の各分野を、確かな科学的社会主義の立場で、しかも平易に、文化、芸術、民俗などの分野も多彩に取材し、明るくたくのしく学習できるように配慮されている。一冊の単行本ではないが、農業経済学をめざす学生諸君にも、もっとも手ごろなみちびきの書となろう。(発注中)

| |
|--------------------------------|
| 大塚久雄著 「社会科学の方法」 岩波新書 607 |
| 高木宏夫 (社会学部教授) |

「新入生中心に一冊の本を」ということになる、とくに人文系の学問に関しては、「学問というけれど科学的な客観性はあり得るのだろうか」という疑問を、常識的にも専門家としても最初の問題とせざるを得ない。文化とか上部構造とかよばれる人間の営みをつかむのは決して容易ではない。学問の方法論という領域がそれを扱っている。かんとんに云うと、「唯物論か観念論か」「唯物論と観念論」の二つの形で、それは提起されている。

百年前後以前にマルクスが、そのあとウエバーが鋭くこの領域に切りこんでから、その何れもが思想と関わり、政治と関るところがあるために、この問題を避ける人が少なくないが、どんな風になぜ避けられないかを知る必要があると考えられる。

百年前後以前にマルクスが、そのあとウエバーが鋭くこの領域に切りこんでから、その何れもが思想と関わり、政治と関るところがあるために、この問題を避ける人が少なくないが、どんな風になぜ避けられないかを知る必要があると考えられる。

原典を読むことが一ばんよいし、またそこまで入る必要があることはいうまでもない。その入門書として是非一読を推めるのが、大塚久雄『社会科学の方法』(岩波新書)である。

(301 : O H : Z)



《本学に学んだ人々》—③—

山本和夫

小見教授の幻覚

私がこの大学を選んだのは、その頃、東洋大学は「詩人大学」と称されていたことが原因の大部分だといってもいいでしょうか。

赤松月船、岡村二一（現、大学理事長）角田竹夫、勝承夫（現、校友会長）岡本潤、多田文三、黒田哲也、橘不死男、小野十三郎（大阪文学学校々長）加藤一郎（易者）三石勝五郎（易者）など……錚々たる新進詩人が、轡を並べて、この大学から詩壇に巣立っていったのです。

それが、文学好きの中学生に、ひそかな憧れを抱かせたことは事実です。もっとも、私は文学者になろうと考える以前の、いわば、人生を最高のエスティックに生きようと純粋に願うほどの境地に低迷していたのですが。

さて、大学にはいると、新しい世界が始動しはじめました。中国哲学の宇野哲人、教育学の吉田熊次、倫理学の井上哲次郎、言語学の橋本進吉……田舎の中学生（旧制）でも、その高名を耳にはさんでいる教授たちが、ずらりと並んで、私を「純粋な学問の世界」へ導いて下さったのです。が、その中で、私たちを驚かせ、泡を食わせたの

は、漢詩の小見清潭教授。

「盛唐の大詩人杜甫、李白以後、絶えて詩人は現れなかったが、現在、ようやく、その後継者が生れた。その詩人こそ、この私だ」

と開講一番。私は、あっと心臓を轟かせました。

すぐあとで、私たち、白井一二、沢本隆子、乾直恵、永村悟一、村松ちゑ子など、詩の同人誌「白山詩人」をはじめ、たどたどしい詩人への第一歩をふみ出すのですが、みんな、小見教授の怪（あるいは快）気炎に咆を食った学生たちでした。

私は、小見教授の怪気炎（幻覚といっていいてしょうか、先生、ゴメンナサイ）を、そっくりそのまま、承継ぐことはできませんでした。けれど、教授のその幻覚は、常に、私の心を支えてくれました。今もって（あれから50年）詩筆を捨てないでいるのは、その証といえなくもないでしょう。

（詩人・短期大学講師）

× × ×

本館所蔵・山本和夫の作品と論集

1. 児童文学へのアプローチ（理論社）

909: J: 1-3 など

著作：海と少年（理論社）戦場の月（中央公論社）燃える湖（理論社）青衣の姑娘（河出書房）スズメを飼う少女（あかね書房）町をかついできた子（東都書房）詩のつくり方（ポプラ社）など

指定図書制度について

大学設置基準第26条で単位の計算方法を規程しています。それによると、1単位の授業内容は、教員の教室内での講義、その他の授業によるものと、学生の自学・自習によるものからなっております。それにもとずいて、教員が学生諸君に指示する図書を「指定図書」と呼んでいます。本学図書館で実施している指定図書の範囲は次のとおりです。一つは講義に直接関連する図書です。テキストを除きますが、教員が受講する学生諸君に必読を示唆する図書にあたります。当館では多数の利用者を予想して複本を用意しております。もう一つは、講義科目に直接的ではないが、一定の関連をもつ図書です。これは必読を示唆しないが、その講義内容の理解をより深めるのに必要な図書にあたります。特に後者に該当する図書につ

いては、開架、閉架にある講義に関連する一般図書をも念頭におき選択して利用するとより効果があがるとおもいます。

以上のように指定図書は、担当教員の指定した講義に関連する図書という意味で受講生にとって重要な意味をもちます。同時に学生として一読の価値のある、いわば基本図書の性格をもっています。事実指定する教員の増加に比例して、学生諸君の利用も、年々高まっております。

昭和49年度は指定図書制度を利用する教員は85名（173科目）に増え、館外貸出を受ける学生数も3,542名（4,210冊）になり一昨年二倍強に達しました。指定図書は、その科目を受講していない学生も利用できますので、一般図書の利用と共に指定図書を大いに利用して下さい。昭和50年度については現在準備中です。詳しくは閲覧係までおたずねください。

（閲覧係・文責鹿島）

蔵書印が変わります



図書館では昭和47年5月から昭和50年1月までの間、①蔵書印の意義、②他大学の調査結果の検討、③蔵書印等の簡略化について検討して来ました。従来の蔵書印の問題点は次の通りです。

- ①年間受入冊数の増加に共ない押印処理が増加し
現行の木版朱印の蔵書印では押印しにくい。
 - ②現行の函架印の押印箇所が不都合。
 - ③押印箇所を出来るだけ少なくし、図書を原型のままとどめる。
- そこで検討の結果次のような結論を得て、昭和50年度受入図書より実施する予定です。
- ①従来の蔵書印、函架印の機能を同時にかねる「受入登録印」を採用する。(押印箇所と押印時間を減らすことができる)
 - ②デザインは本学にゆかりの八咫鏡をとり入れて上図の通りとする。
 - ③木版朱肉を廃止し、ゴム印のスタンプを使用する。
 - ④押印箇所を標題紙の表ページ一カ所とする。
 - ⑤請求記号の記入は標題紙の裏ページとする。
 - ⑥貴重書、和装本は現行通りとする。(受入係)

一図書館運営委員会審議要約一

○49年度第2回(10月22日、於図書館会議室)

議題 「工学部分館事務室」設置及びそれに伴う分館規程一部改正の件については、委員会としてその主旨を了承する。今年度補正予算要求の件については3千万円を要求する。

○49年度第3回(11月12日、於図書館会議室)

議題 教職員対象の「図書帯出ノート」については実験的に次年度も継続して実施する。図書館諸規程に短大が含まれている点については規程上不備があるが慣行で運用する。教員閲覧室は書架でくぎり利用しやすいよう改造する。

参考図書の解題

一教育関係一

社会教育辞典

第一法規出版(379.03:S-2)

わが国における第一線の社会教育研究家の協力のもとに完成した事典である。

社会教育に対する考え方が戦前のように狭いわくの中でのみとらえられがちな傾向から脱して、多角的な拡がりをみせ、その施策も拡充の一途をたどり、その理論と実践の両面において、飛躍期にある現在、社会教育の本質や性格を歴史的な背景の中でとらえることの必要性については論をまたないであろう。

このような観点から、本事典は行政や実践としての社会教育の組織化を図ること、今日のこの時点で社会教育に要求されるものを、さまざまな角度から明白にすること、具体的な社会教育の内容とプログラムを示すこと、社会教育の方法を教育工学的見地をも含め解明すること、各段階の社会教育行政の役割と課題を鮮明にすること等を主眼点にしている。

このような事典の性格から、ハンドブックとしての利用価値をもかねそなえたものになっており、この点は特筆に値するといえるだろう。

巻末に各分野別の参考文献が付されている。

分館長都先生を悼む

12月1日、都先生は狭心症の為に過去帳入りとなられました。

2日の朝出勤して訃報に接しても全く信じられませんでした。4日ほど前の会議にはあのニコやかな御顔で元気に出席されたのですから。

先生は非常に熱意を以て工学部分館の運営にあたられ、奉仕の向上等に多くの成果をみました。先生の御縁で鉄道技術研究所から大量の資料の寄贈も受けました。

週に3日は分館に来て館員の融和に務められ、時々お供した酒席では、東海道新幹線の話や美声での民謡をきかせて下さいました。

でも、先生のあの笑顔にはもうお目にかかれません。分館員一同生前の先生を偲びつつ蓮華台上の先生の御冥福を祈ります。

工学部分館 米山 大恵

閲覧室の環境保全について

1. 閲覧室内での雑談について（室内騒音に関するもの3件）

（係から）閲覧室内の私語防止の特効薬は、なんといってもみなさんの自覚と協力以外ありません。みなさんがお互いに注意しあうよう要望します。もちろん館内の静粛を保つ責任は図書館にもあります。そこで1日2回の館内放送と数回の巡回を通じて利用者のみなさんの協力を求めていくことになり、すでに実施しております。投書には「巡回を30分に1回」との意見もありましたが、私語による騒音とは別な意味で問題があるとおもわれますので、図書館としてはみあわせております。係の巡回など必要とせずよりよい環境保全が出来るようみなさんのご協力を重ねてお願いします。

2. 第2閲覧室の照明が暗い（1件）

（係から）第2閲覧室の天井の照明は、電球が切れやすく、とりかえても次が切れるという状態ですので、抜本的解決策を検討しました。当館を設計した本学工学部建築学科に、諸施設の点検と共に照明度測定を依頼し、図書館の照明基準とも考えあわせて、改善策を担当部課へ申入れました。その結果、2月初旬に、新しい照明を設置するなどの工事を完了しました。大いに利用してください。

3. 楽器演奏による騒音（1件）

（係から）楽器演奏による騒音は、大学全体の施設との関連で考えるべき問題ですが、すでに、音楽練習場が6号館に設置され、練習の場は移動しました。一部のクラブによる演奏についても、図書館からも、中止するよう注意しております。今後新7号館建設など諸施設整備にともない完全に解消するものとおもいます。

4. 紛失図書の見録カードの抜きとりまたは、補充の件（1件）

（係から）まず当館の方針から説明しましょう。

当館には、閲覧用カード《分類目録・辞書体目録（著者・書名・件名）》と、事務用カード（書架・照合・閲覧事務用など）があります。仮に紛失図書カードを抜きとるか、紛失表示を行なうとなると、1冊平均約8枚のカード処理が必要となります。膨大な労力を要することと同時に、一度は当館に所蔵していたという記録の意味からも抜きとることは慎重を要する問題です。そこで方針ですが、従来から閲覧用カードはそのままとして、毎年3月実施している照合作業結果を（開架図書、参考図書を対象とする）閲覧事務用カードに記入し、さらに紛失図書リストを作成し、閲覧係員が把握しておくという形をとっています。紛失図書については補充を原則とし、毎年予算も計上されており、再購入手続きをとっています。特に一昨年、昨年の2年間、過去紛失した図書すべてを再調査し、各書店へ発注しました。しかし、日本の特殊な出版事情から、品切れ、絶版がひじょうに多く、2～3年で店頭から消えてしまう場合も少なくありません。そのような事情から、補充率は4割以上は難しいというのが実情です。そこで、当面、学生諸君の利用希望の多い図書を重点に再購入にさらに力を入れること、また、資料の収集方法、組織改善などをはかることで補充率を高める努力をし、学生諸君の期待に答えていく所存です。

最後に一言しておきたいことは、紛失図書は、1年間で開架、参考図書を含めて800冊にのぼるということです。開架図書の場合紛失はほとんどないことと考えると、図書の紛失の原因は、一部学生諸君の図書館利用の姿勢にあると断ぜざるを得ません。図書は公共的性格が強いということと共に、貴重な文化遺産として後世に伝えなければなりません。みなさんの自覚と協力を強く要請する次第です。



日誌(49年10月～50年2月)

- 10月3日 分館 補正予算要求
5日 分館 開架室(2F)に書架増設
9日 長谷川昂作『海』(彫刻) 図書館へ還る、補修して2階カウンター前に設置(11月21日)
8日 図書選択委員会 各学部共通予算執行について審議
14日 分館 屋上雨漏り修理
15日 分館 埼玉県下高校教員の方来館
19日 私大図協会「書誌学分会」
22日 図書館運営委員会 補正予算要求、工学部分館事務室設置などについて審議
白山連絡会
11月6日～8日 全国図書館大会(於東京、本館からも多数参加)
8日 父兄会三重県支部より11名の父兄見学のため来館
11日～12日 分館 49年度上半期会計監査
12日 図書館運営委員会 図書貸出し、図書館関係規程、教員閲覧室改造などについて審議
白山連絡会
20日 第3回館内研修講演会 中井清先生「アメリカの大学図書館の現状」、小倉欣一先生「ドイツの大学図書館の現状」
29日 私大図協会「事務能率分会」
30日 " 「書誌学分会」
父兄会茨城県支部より40名の父兄見学のため来館
12月1日 都淳一分館長逝去
11日～14日 私大協会「館長並びに主務担当者研修会」(於伊豆土肥、世良、村田参加)
23日 白山連絡会
「東洋大学図書館蔵書目録」第3巻(和漢書編)完成、ただちに学内外への配布開始
31日 杉山喬、溝口加恵(白山勤務)退職
1月2日～15日 「小倉百人一首展」(サンケイ

新聞社主催、於広島そごう)に本館より関係資料多数出品

- 9日 仕事始め。
10日 開館
私大図協会「閲覧分会」
23日 分館連絡会
25日 私大図協会「書誌学分会」
27日 図書館運営委員会 昭和50年度予算要求などについて審議
2月4日 教員閲覧室改造工事完了、これにともなう、書庫内資料の一部を移動、整備
5日 分館運営委員会
6日 臨時白山連絡会
10日 大学院経済学専攻、公法学専攻設置申請にともなう実地審査を受ける。
17日 図書選択委員会 補正予算執行について審議
20日 白山連絡会

~~~~~

訂正

前号(Vol. 9, No. 2) 7頁本文の下から12行目を次のように訂正いたします。

誤 正

署2名人名 → 署名人2名

編集後記

編集委員を二期やってしまった。これをやると成長すると言われたからだ。しかし工学部なので、校正などすべて白山の人まかせ。ついに原稿集めに始まりそれに終わってしまった。(藤)

編集するという事のむずかしさを知りました。原稿をお寄せ下さいました皆様、ありがとうございます。(板)

時は新学期ですが、やっと一年が終ったという感じ。たった3号しか出せなかったのにフーフー言っ、すみませんでした。(丸)

裏方の苦勞を知ってきょうの日はサウナラノ一年間良い勉強になりました。新しい教職員学生の皆さん、編集の皆さん今後共図書館ニュースを大切に育てて下さい。(村)